

第455回生存圏シンポジウム
第15回生存圏フォーラム特別講演会

「コロナ禍での生存圏科学」

生存圏フォーラムでは、持続的発展が可能な生存圏を構築すべく、情報交換・人的交流・教育・啓発活動の一環として特別講演会を開催しています。今回は様々な分野、所属の研究者をお招きし、ご専門の話とともにパンデミックを乗り越えていくサイエンスの現場についてもご講演いただきます。

日時：令和3年10月30日（土） 14:15 - 17:35

会場：京都大学宇治地区おうばくプラザ・きはだホール（聴講無料）

- 会場での聴講は申し込み不要ですが、入場制限・会場閉鎖の可能性があります
- 同時WEB配信をフォーラム会員限定で行います。入会手続き等詳細は下記まで。

プログラム

14:15-14:20 開会の辞

柴田 大輔（生存圏フォーラム会長）

14:20-14:40

「京都大学生存圏研究所活動紹介」

塩谷 雅人（京都大学生存圏研究所・所長）

14:40-15:20

「タケ類の開花現象を遺伝子から探る」

坂本 正弘（京都大学大学院農学研究科・准教授）

15:20-16:00

「気候変動に伴って黄砂はどう変化していくか？」

清水 厚（国立環境研究所・主幹研究員）

16:10-16:50

「地球・惑星・宇宙における電磁現象の研究」

加藤 雄人（東北大学大学院理学研究科・教授）

16:50-17:30

「コロナ下における地方での研究活動」

山内 秀文（秋田県立大学木材高度加工研究所・教授）

17:30 閉会の辞

お問い合わせ・生存圏フォーラム入会申込先
京都大学生存圏研究所
生存圏フォーラム事務局

e-mail: forum@rish.kyoto-u.ac.jp

Tel: 0774-38-4594, Fax: 0774-31-8463

HP : <http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/forum/>



「コロナ禍での生存圏科学」 講演概要

14:40-15:20 「タケ類の開花現象を遺伝子から探る」

坂本 正弘（京都大学大学院農学研究科・准教授）

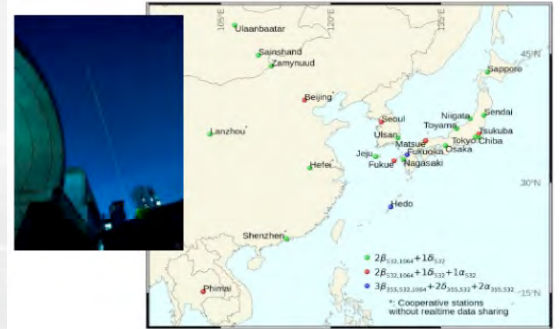


タケやササの開花現象は数十年に1度のベントであるため、普段はなかなか見ることができない。近年、各地でさまざまな種類のタケササの開花が報告されるようになった。このようなタケ類の開花現象はどのようなメカニズムで起こるのであろうか。本講演ではタケ類の開花関連の遺伝子研究の一端を紹介する。

15:20-16:00 「気候変動に伴って黄砂はどう変化していくか？」

清水 厚（国立環境研究所・主幹研究員）

ユーラシア大陸内部のゴビ砂漠などから日本へ到来する黄砂は21世紀に入り減少傾向を示していたものの、今春には久々に大規模な黄砂現象が見られました。気候変動が進む中で黄砂現象がどのように変化していくのか、監視や予測のために環境省のサポートで進めている研究について紹介します。（黄砂を観測するライダー（左）と北東アジアにおける配置（右））



16:10-16:50 「地球・惑星・宇宙における電磁現象の研究」

加藤 雄人（東北大学大学院理学研究科・教授）



地球をはじめとする太陽系惑星の周囲には「惑星圏」が形成され、多様な環境が形作られています。本講演では、私たちの研究グループが進める地球・惑星・宇宙における電磁現象の研究内容と、コロナ禍における取り組みについて紹介します。

16:50-17:30 「コロナ下における地方での研究活動」

山内 秀文（秋田県立大学木材高度加工研究所・教授）

昨春から続く新型コロナウイルス感染症については、都市部での感染状況は周期的に状況が報じられ、大学や研究期間の対応も比較的に見聞きする機会が多い。一方で、地方は地域により感染状況が異なり、その対応もまちまちであり、何よりも「地域性」による見えない障壁が存在している。本公演では、この一年半のコロナ下で私が経験した秋田県立大学での活動状況を、現在進めている研究と合わせて紹介したい。

